



特256  
431

家禽王

七面鳥の飼養

東京 家禽奨励普及會

始



家禽獎勵普及會會則

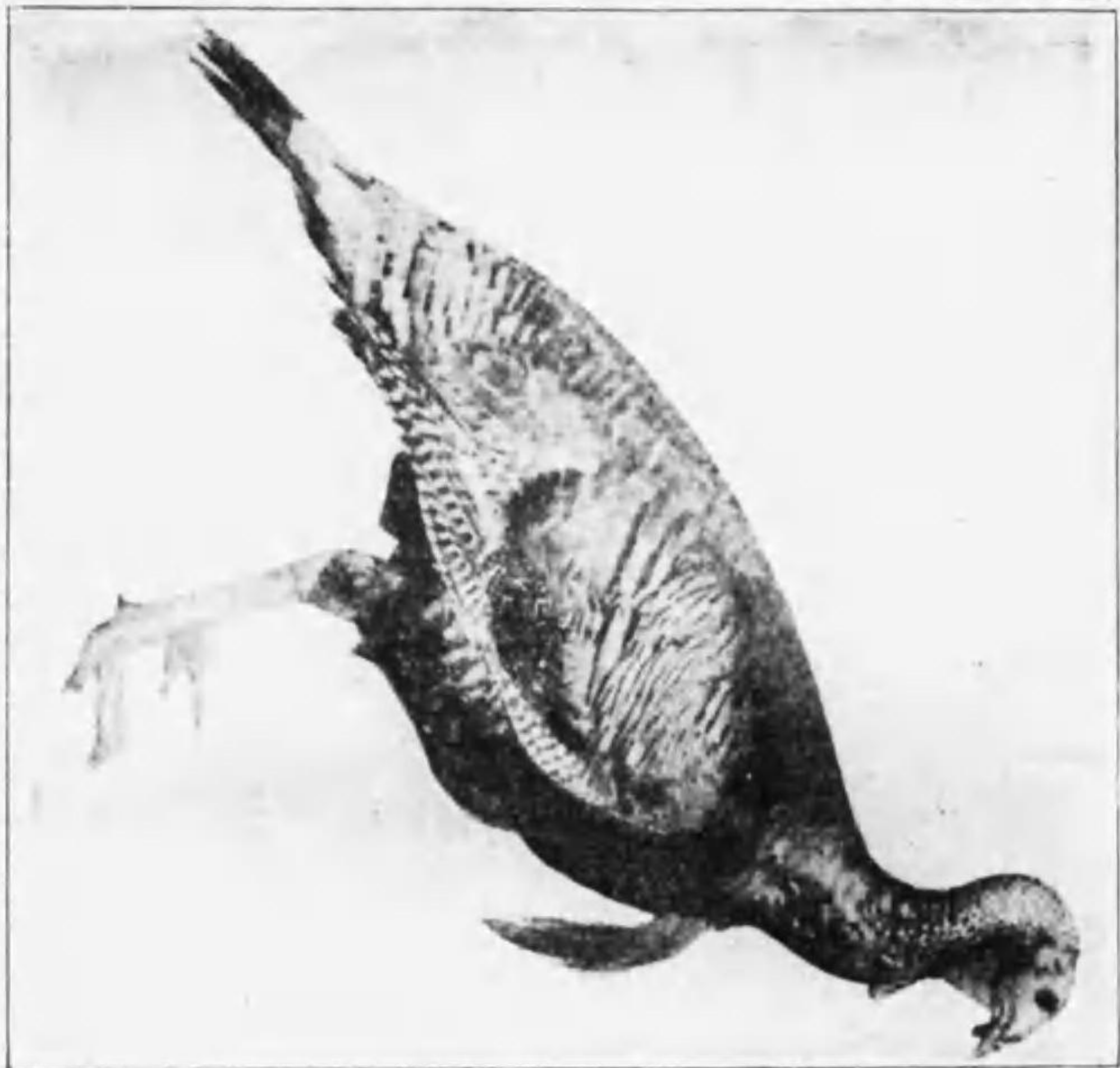
第一條 本會ヲ家禽獎勵普及會ト稱シ事務所ヲ東京市京橋區常盤町壹番地ニ置シ  
 第二條 本會ハ一般家禽飼養家ニ對シテ、斯業上必要ナル智識ノ啓發ニ努ムルト共ニ、永久無料ヲ以テ指導誘服スベシ  
 第三條 本會ハ前條ノ目的ノ一部トシテ諸家禽中最モ有望ナル七面鳥飼養法講座ヲ發行ス  
 第四條 右七面鳥飼養法講座ハ毎月一回之ヲ發行シ三ヶ月ヲ以テ完了ス（前編、中編、後編）但シ速成講習ヲ望ム者ニ對シテハ三ヶ月分ヲ同時ニ發送ス  
 第五條 七面鳥飼養法講座ニヨリテ通信受講セルモノヲ以テ本會ノ會員トス  
 第六條 本會ノ會員タラントスルモノハ大様次ノ意味ニ於ケル入會願ト共ニ全會費ヲ添エテ申込ムベシ  
 今般貴會ノ趣旨ニ賛同シ講座會費三ヶ月分相添エ入會申込ミ候ニヨリ、直チニ七面鳥

飼養講座御送附下サレ度ク候也

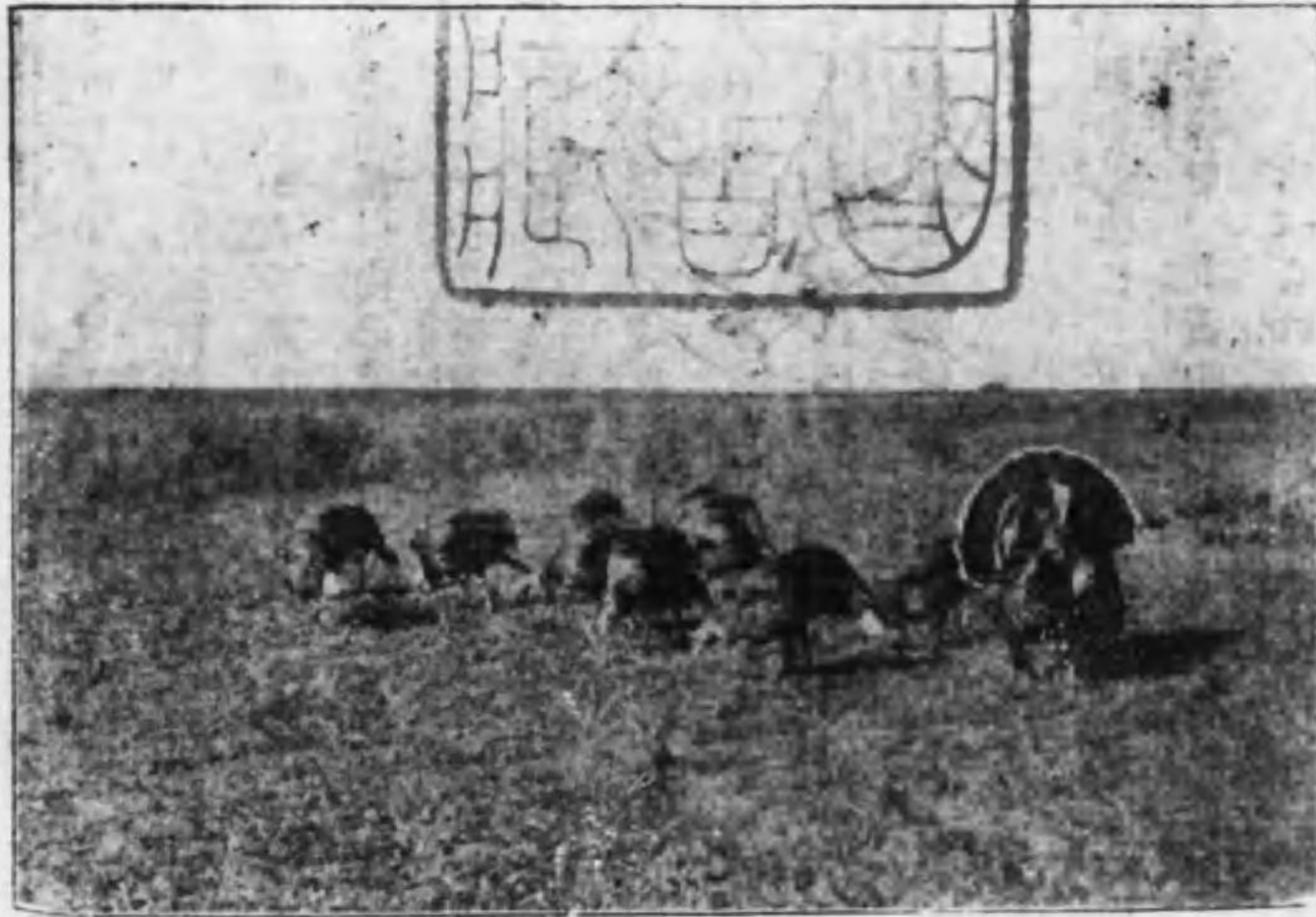
年 月 日 住 氏 所 名  
 家禽獎勵普及會 御中  
 第七條 本會ノ講座會費ハ全額ニテ金參圓五拾錢トス、但シ別ニ送料金拾貳錢ヲ要ス會費ハ直接現金ヲ以テ拂込ムカ又ハ振替貯金又ハ爲替ニテ送金スベシ、但郵便局不便ノモノハ切手代用タルヲ防ゲズ、此場合ハ一割増シ  
 第八條 本會ハ會員ヨリ會費金到着次第直チニ該七面鳥飼養法講座ヲ發送ス  
 第九條 會員ハ講座中ノ疑義及斯業ニ關スル百般ノ事項ヲ質問スル事ヲ得ベシ、本會ハ永久無料ヲ以テ之レニ應答ス  
 但シ必返信料ノ添附ヲ要ス  
 第十條 會員ニシテ講演又ハ實習等ノ爲メ本會ノ指導ヲ受ケントスル時ハ本會ヨリハ實費ヲ以テ講師ヲ派遣スルコトアルベシ  
 第十一條 會員ニ於イテ種卵、種禽、器具ノ購入ヲ望ミ又ハ生產品ノ賣却ヲ望ム者ニ對シテハ、本會ハ絶對責任ノ下ニ實費ヲ以テ確實仲介ス但シ各品ノ時價ハ一應照會ヲ要ス



七面鳥の雄鳥の姿を写した。尾羽は、美しい模様を呈し、雄鳥の威風凛々たる姿を表現している。



七面鳥の雌鳥の姿を写した。尾羽は、雄鳥に比べて短く、優雅な姿を表現している。



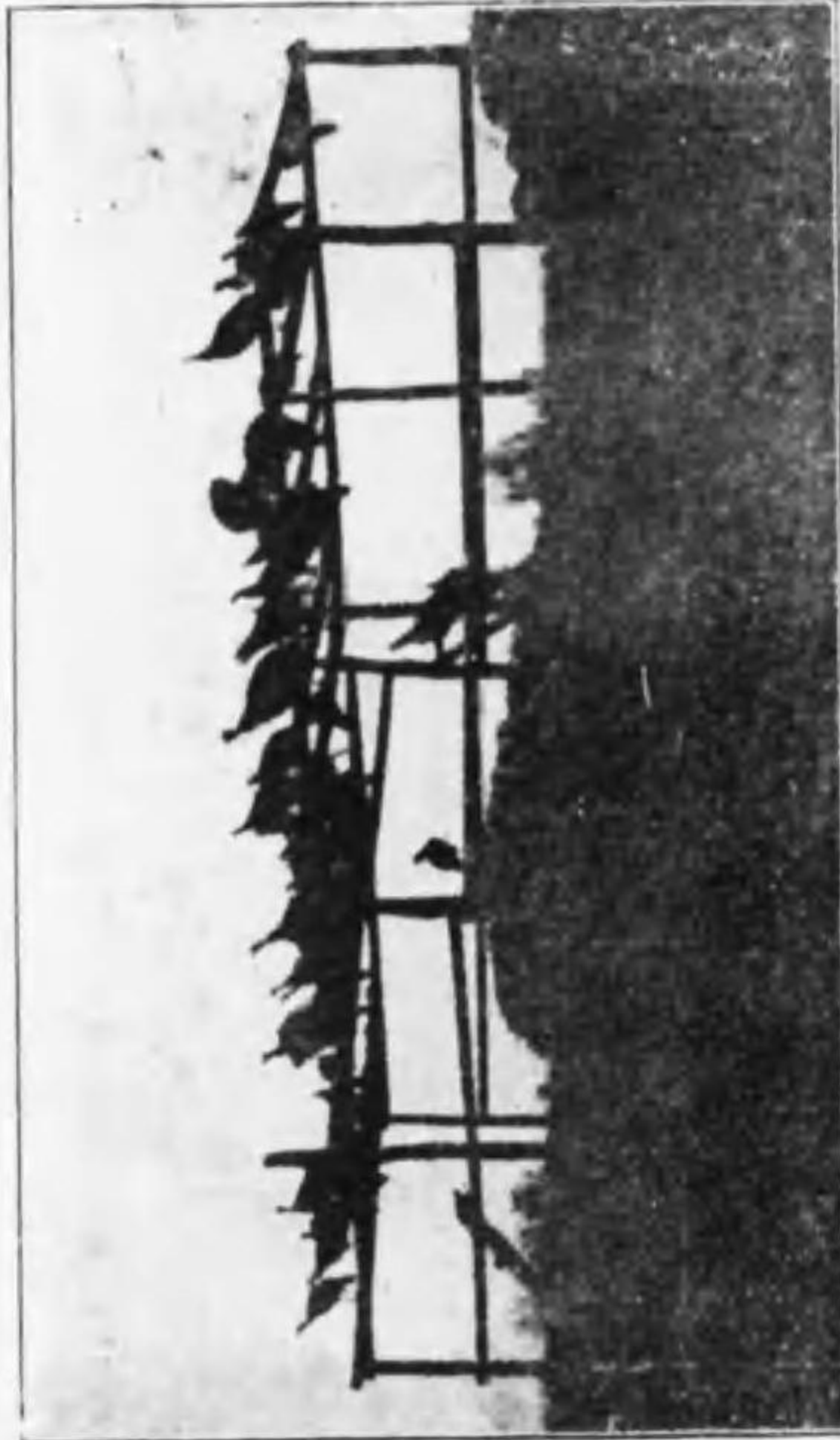
(野原に飼放たれた七面鳥の遊群)

## 有利好望なる七面鳥の飼養

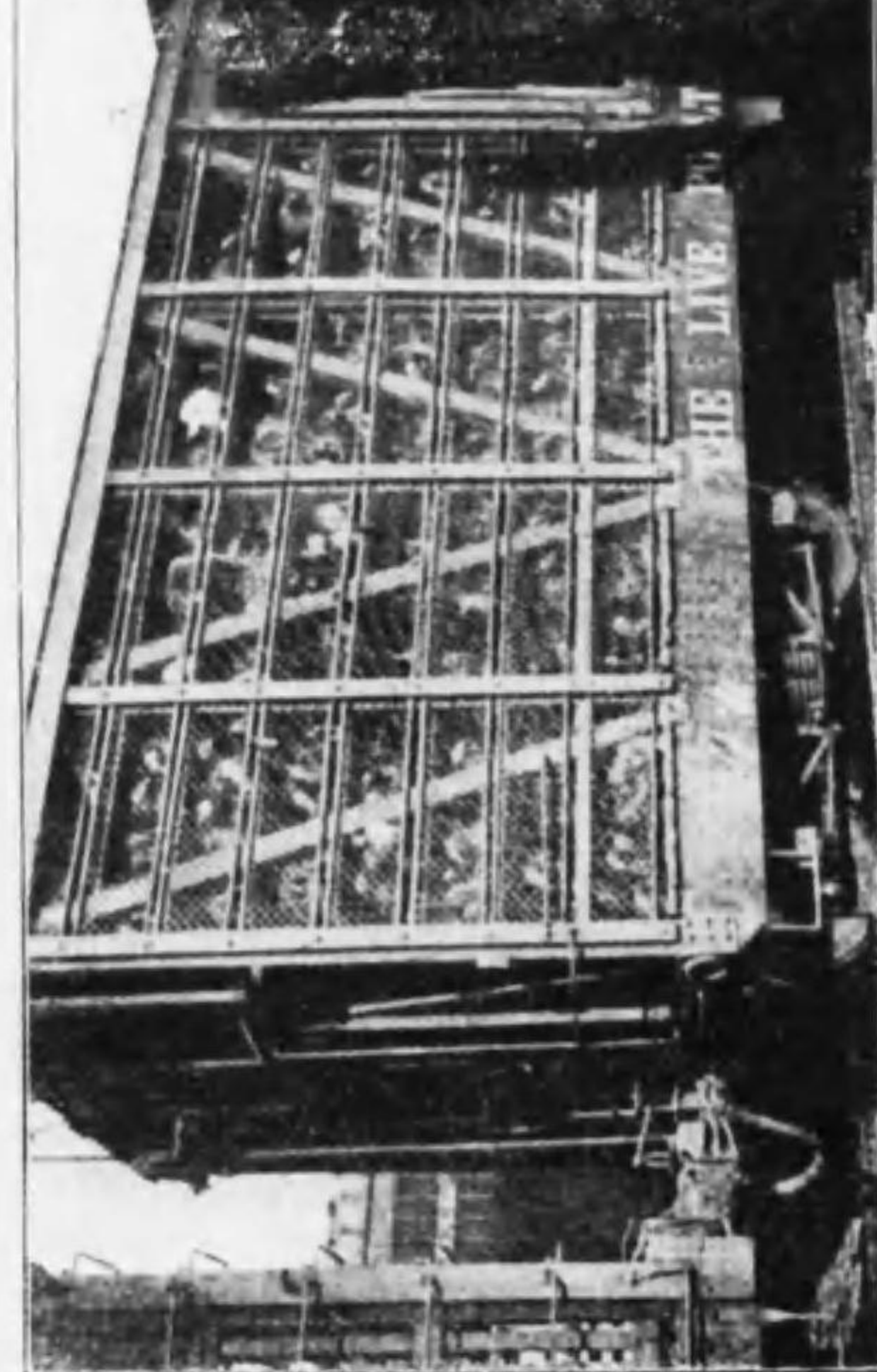
近年我が國に於いても七面鳥の卵や肉の需要は年々激増して、殆ど涸れとして底止する所を知らぬ程であります。市價も亦常に騰く、普通鶏肉中の最上とされて居る大雞よりも尙五割乃至二倍の高値をもつて取引されて居ります。然るに我國の七面鳥飼養は漸く最近發達しかけた許の事故、到底供給は需要の數分の一にも充たぬ程であります。

従つて東京や大阪の各鶏肉問屋では常に血眼になつて四方八方を飛びまはり、一卵一羽を買ひ集めるにさへ妙からぬ努力を拂つて居ります。何故に七面鳥の需要は斯くの如く年々激増する

彼等は強健無比です、何んな寒風でも野天の僅の一さまり木で風邪一つ引きませません



諸外國に於ける七面鳥の需要の大なるは想像以上です、唯七面鳥専門列車さまであります



彼等の野卵と産卵の上手さは天賦です、狭い箱の中でも飛び出しもしせず溫和なしく三四十羽を飼えます



之れは屠殺毛をされて天井に吊るされ七面鳥肉の需要は殆ど無限の勢で各國に於ける七面鳥肉の需要は殆ど無限の勢で四方八方を飛びまはり、一卵一羽を買ひ集めるにさへ妙からぬ努力を拂つて居ります。何故に七面鳥の需要は斯くの如く年々激増する

かと申しますと、これは既に御承知の事と思ひますが、凡そ諸家禽類中で七面鳥の卵肉程美味いものは無いからであります。諺にも美味いものゝ事を「七面鳥の肉の様だ」と申しますが、外國では又七面鳥の肉の味を「家禽中の王」と稱して居ります程であつて、何人と云へ共一度七面鳥の美味を味つたものは再び鶏肉の如きは顧みられなくなる程であります。肉質は緻密で柔軟豊汁、ギューツと噛みしめれば舌の先は溶ける様で、而も其高雅優越なる風味は他の追隨を許さぬものが有ります。

又卵の美味にして滋養の豊富なる事も鶏卵に優る事数等で、其黄味の如きは粘着濃厚で、箸でチギツテも喰べられる程であります。故に都人士の如く味覺の發達した者は、金に糸目を附けずして

如何程の高額を投じて七面鳥の肉を求めたがるものです。七面鳥の卵肉は斯くの如く美味高雅なるを以て、平常に於ても其需要は逐年激増するばかりであります。殊に此の七面鳥は外國人や基督教信者にとつては永久缺く可らざる事があります。

其れは毎年十二月下旬の基督降誕祭の儀式には何うしても食卓上に一羽の七面鳥を供えなければならぬ事になつて居るのです。之れは丁度我が國民が年越の晩には食膳上に鮭又は鱒を供えなければならぬと同一であります。否其れ以上に基督降誕祭の儀式には七面鳥を必要とするのであつて、七面鳥が無くては基督降誕祭を行つた事にはならぬ程重要視されて居ます。従つて毎年十二月になると七面鳥の相場が數割も騰貴致しますのみ

ならず、各間屋筋は殆ど血眼になつて全國各地より買ひ集めるのですが、到底も需要に應じきれた譯のものではありません。誠に惜しい事ではありませぬか。其れでも近年は從來の養鶏家中の一部の先覺者は七面鳥飼養の有利多望なるに着目して俄に之れが飼養を試みんとするものが多くなりまして、之は聊さか「戦を見て矢を矧ぐ」の感は有りますが、然し幾分かは心強い事になりました。

七面鳥の飼養は之れを他の一般養鶏業と比較する時は、算盤の上に於いて殆んど比較にもならぬ程の利益あるものであります。惜しい事に我國の人々は未だ此の大有利業に心附かぬ人が多いのであります。殊に又今迄は七面鳥飼育に關しては専門的に研究指導された書籍、講述すら無いのであります。

今試みに七面鳥の飼養が如何に他の養鶏業に比較して有利有望なるかを略述して見ませう。左記述ぶる所は實に其の一端であつて且つ又箇條列記の順序も書き流しの儘ですから不同です。然し其の有利有望なる事の一般だけは察知し得らるゝ事と思ひます。

- 一、七面鳥は諸鳥肉中最高價なり。
- 二、採卵は其儘種卵として高價なり。
- 三、七面鳥の雌雄は共に小形卵卵器なり。
- 四、七面鳥の雌雄は共に小形育雛器なり。
- 五、彼等は強健無比、疾病少し。
- 六、我が國は至る所七面鳥飼養に適す。
- 七、殆んど禽舎費を要せず。
- 八、一時的の流行鳥に非ず。

(一) 七面鳥は諸鳥肉中最も高價なり

七面鳥の肉の美味なる事は諸禽中の王であること云ふ事は前に申述べて有りますが従つて需要も亦無限で市價は諸鳥中の王位を占めて居ります。試みに本年上半期(十四、一、一六)中に於ける各月市價の最高價を他の鶏の最高價と比較して見ますと

種類	一月	二月	三月	四月	五月	六月
鶏大雌	60	60	60	60	60	60
鶏中雌	50	52	48	52	50	60
鶏小雌	40	43	40	38	38	38
鶏大雄	60	60	57	60	65	65
鶏中雄	55	58	55	55	55	55
鶏小雄	60	55	50	53	53	53
七面鳥雌	75	90	95	1.05	1.10	1.10

右の表は何れも各種共「丸」(骨も羽毛も附いた儘のもの)の儘百匁に就いての相場であります。

七面鳥は雄も雌も殆ど同値ですから別に區別して掲記致しません。之れは問屋が直接買入れた相場場で且つ此の表は中外商業新報掲載の相場表でありますから絶対に間違ひはありません。

此の表によつて見てもお分りの事と思ひますが常に七面鳥の相場は鶏肉中最も高價なる「大雌」又は「大雛」よりも更に五割乃至二倍も高價に取引されて居るではありませんか。假りに目方四貫六百の七面鳥の雄を五六月頃に取引したとすれば實に一羽の時價は金五拾圓六拾錢ですから殆ど田舎馬一頭の價格か又は大豚一匹の値段にも匹敵します。而して現今七面鳥の代表的種類として一般に普及されつゝあるのは青銅色七面鳥であります。此の種の良種は飼養法如何によつては優に五貫目

近くの體量にも達せしめ得るのであります。(標準體量雄四貫三百二十匁、雌二貫四百匁)

然し此の四貫目以上五貫目内外のものを作出するには何うしても約一ヶ年内外の飼育を必要と致しますが普通は満壹ヶ年目には雄三貫匁以上三貫五百匁以下、雌二貫目内外には達せしめ得る事は當然でありますから何れにしても素晴らしいものと云はなければなりません。

而して七面鳥飼養に要する餌代は之れを他の養鶏等に要する餌代と比較する時は之れ亦比較的安價な餌料を以て足りるのであります。何故か申しますと元來七面鳥は何を云ふにも未だ野生種の事でありませぬから、鶏の様に美食の必要が無いからであります。彼等の強健なる胃腸は如何なる粗食からも榮養分を攝取し得る事は例へば牛馬の胃

腸が藁屑さまでも消化して榮養分を攝取し得ると同様であります。殊に七面鳥は好んであらゆる牧草野草を啄食しますから、安價で粗食の飼料をもつて十分に發育せしめ得るのであります。故に之れが飼養費の如きは普通産卵を目的とする養鶏費以下を以てして足りるのでありますから、其の有利なる事は到底養鶏等の比ではありません。

(二) 採卵は種卵として高價なり

七面鳥の肉が需要無限で且つ常に市價高く取引せられ、而も之れが餌料は鶏の餌料と同程度以下をもつて成長得せしめ得る事は前述の如くでありますから之れを肉用専門に飼養するの有利なるは申す迄もありませんが、然し又七面鳥を採卵の目的に育てる事の有利も敢て之れに劣りませぬ。七面鳥は前にも申しました通り未だ野生種の域を

離れませんが到底鶏の様には澤山の卵は産みません。普通良種青銅色七面鳥の雌の産卵期は年四期であります。此の四期中に産む卵の總計は大略六、七打のものです。一個の重量は十八匁から二十一二匁に及ぶものです。従つて産卵の数は尠くも重量としては年に百三四十個位しか産卵しない鶏と大差ない卵量を得る事が出来ます。而して目下大都市に於ける七面鳥の卵の相場は場所により一定しませんが普通は鶏卵よりも二三割の高價です。然し此の七面鳥の卵をムザ／＼食用卵として市場へ送り出す事は盲目のする事であつて實際の目明きは其んな馬鹿氣た事は致しません。然らば如何に之れを有利に處分するかと申しますと、多くは之れを種卵として賣出すのです。目下七面鳥の種卵一打の値段は何んな安い種禽家の所でも

一打金五圓以下の所はありません。假りに一打の種卵を安價に見積つて一打四圓とするも、之れが六打の價格は貳拾四圓です。七打ならば貳拾八圓となりません。現に本會に於いても、一定の雄を配合した青銅色七面鳥の種卵ならば無精卵ならざる限りは、何時でも進んで一打金四圓五拾錢以上の高價を以て御買入致します。何んなに相場が狂つても斷じて之れ以下の値段と云ふ事はありません。普通は大抵一打五圓以上を以て御買入申しますから種卵御持合せの方は一應御照會下されば直ちに其時の相場で買入れ値段を御通知申します。一時に何十打、何百打でも誓つて御引受けします。尚ほ種卵採取の場合に於ける飼養法や荷造り送荷法等は明細に本會の七面鳥飼養法講座中に詳記してあります。

而して七面鳥は鶏と異つて四五ヶ年は繼續して産卵するものであります。四五ヶ年も産卵を續けた後は今度は之れを食用鳥として市場に出せば矢張り高價な普通の七面鳥として取引されるのであります。七面鳥以上に有利なる家禽業は他にありません。

### (三) 七面鳥は小形孵卵器なり

七面鳥が孵卵に巧みなる事は既に誰でも御承知の事と思ひますが、實に孵卵は彼等の本能とも云ふべきであります。従つて現今各國の小養鶏家は鶏の卵を孵化させるのに七面鳥の雄や雌を利用して彼等に孵卵を託するのであります。普通中型の七面鳥雌が抱卵し得る鶏卵は二十五六個内外であります。一旦彼等が巢に就き始めれば殆ど如何なる事があつても離巢する事無く、能く積座數

回に堪え得るものであつて、餘程注意して管理しないと抱卵に熱心の餘り、何日経つても食餌も攝らずに就巢して居る程であります。

而して此の七面鳥と云ふ鳥は便利な事に其飼養法と餌料如何によつては、何時如何なる季節たるを問はず、又其産卵中であらうが無からうが、自由人工を以て巢に就かせる事が出来るのであります。故に若し七面鳥を生きた孵卵器代りに利用すれば便利重寶此上無しで、温度が上り過ぎたの下り過ぎたと云ふ心配も無く、やれ廻轉たとか、やれ放冷たとか煩雜な操作を敢えてする必要もなく、石油代又は電氣代の何分の一かの飼料費を以て、少しも人間の厄介を要せずして立派に雛を孵化して呉れると云ふ事は、誠に禮讚すべき家禽ではありませんか、百羽や百二十羽の鶏の孵卵に

は七面鳥の四五羽もあれば十分です。其うして解化させた後へ直ぐ卵を入れて又解卵に取り掛らしむる積座も三四回迄は大丈夫です。

更に此の鳥の重寶なのは雄鳥に迄も人工を以て強制的に就巢せしめ得る秘方法があるから驚くではありませんか、雄鳥に強制的就巢法を施して解卵に携はらしむる時は優に三十五六個の鶏の卵を抱卵し得ます。

#### (四) 七面鳥は小形育雛器なり

七面鳥の天性が解卵に巧みなるは前述の如くであります、解卵に巧みなるものは又之れを育雛するに巧みなる事も自然の理であります。従つて七面鳥の育雛にも亦天賦の技能のある事は當然であります。彼等の育雛は實に巧みであつて、翼下に能く二三十羽の鶏の雛を抱き育てる事が出来ま

す。現今我が國にも随分完全らしく出来て居る育雛器もあるけれ共、然し雛は矢張り親鳥の世話によつて育てられるもの、方が育ちが宜い様です。

これは如何に育雛器が精巧に出来たとは云へ、人工は遂に天然に勝つ能はずで、到底母鶏に託するの便利安全なるに比すべくもありません。尚ほ七面鳥の雄や雌を如何なる方法によつて、育雛用たらしむべきか等の精細な事は、擧げて一切を講座中に説く事と致します。

#### (五) 彼等は強健無比にして疾病少なし

「七面鳥の雛は弱い」と云はれますが之れは七面鳥の飼養法を知らない人の云ふ事であつて、真に其の飼育上の智識ある人は「鶏よりも樂だ」と申して居ります。従來我が國には七面鳥を専門に研究した人も尠く且つ又其飼養法についても何等

の指導書も無かつた爲に、雛の育て方を知らない人が多かったのであつて、真に其の飼養法を知れば、七面鳥の育雛は易々たる事でありませぬ。

殊に彼等は一定の發育期間を経過すると頗る強健であつて、殆んど野生其儘の様な取扱ひをする事が出来ます。現に何んな寒國の嚴寒の夜も平氣で野天に寝て風邪一つ引きませぬ。従つて養雛の様に立派な鶏舎の必要も無く、強ひて造れば隙間の多い堀立て小屋で結構です。其れで居て病氣にもかゝらなければ弱りもせず、ズン／＼成長もすれば産卵もします。殆んど投げつけても死にませぬ。

#### (六) 我國の氣候は七面鳥に好適

前にも申しました通り七面鳥は殆んど野生の取扱ひを受けても構はぬ程であるから寒暑の差無く、

全國到る所の氣候が彼等の飼養蕃殖に適します。之れは十分御安心置き下さい。

#### (七) 禽舎費等の設備費少なし

之れは前にも述べてある通り、一定の發育期間後は殆んど野生の取扱ひをしても構はぬからであります。

#### (八) 一時的の流行鳥に非ず

之れは年々七面鳥卵肉の需要が激増するのを見ても分る事でありませぬ。殊に需要の目的が肉、卵、愛玩用の三方面に向つて確實なる基礎を有するからであります。之れを彼の一時的流行兒たりし子供ダマシの様な鶉やセキセイインコ等と比較されれば堪りませぬ。

サア之れで七面鳥が他の養鶏、養鶉等の家禽業に比較して、如何に有利多量なるかの諸特長が御

分りの事と思ひます。然るに今日迄多くの人々は之れ程有利有望なる七面鳥飼養をば知らなかつたのであります。否全然氣も附かない人が多いと思ひます。況んや其の飼養法や販賣法の如きは更に知らなかつた事と思ひます。如何に有利有望なる事業にもせよ、「氣も附かず方法も知らず」では何にもなりません。

殊に従來の人の様に何等七面鳥飼養に關する智識も無くして、盲目滅法に飼はれたでは堪つたものではありません。其の道の智識無くして其道に携はるの危険は、恰も電氣學の智識無くして高壓線に觸れるの無暴と同じでは無いでせうか、更に云はゞ、薬名をも辨へずして服藥するの危険と同一ではないでせうか。殊更我國には此の七面鳥飼育に關しては、未だ専門的に將た又組織的に研究

指導した書籍、講述書の如きは日本中にタダの壹冊も無いのです、之れ今回本會が多年専門的に研究を遂げて成功した七面鳥の飼養法の秘訣全部を、惜しげも無く公開發表して「七面鳥飼養法講座」を設けたる所以であります。内容の充實と行文の平易とは相俟つて、恰も袋の中の物を探るに異ならざるを自讃致して置きます。

尚ほ又申添えて置きますが、初心者の方に對する、種卵の仕入先や生産品の確實なる賣先等は、一切明細に講座中に詳述致して置きます。  
(以上家禽獎勵普及會理事長、櫻井倉梧生筆述)

## 家禽飼養法講座

### 前編講座の部

- 第一章 緒論  
第一節「七面鳥の利用」より、第六節「有利有望なる七面鳥飼養」に至る六分節
- 第二章 沿革  
第一節「七面鳥の原種」より、第八節「交尾時節の媚態」に至る八分節
- 第三章 品種  
第一節「純粹種と雜種」より、第九節「ブルボン赤色内種」に至る九分節
- 第四章 蕃殖法  
第一節「蕃殖の定義」より、第十三節「種禽の講入」に至る十三分節
- 第五章 孵化  
第一節「種卵の選擇」より、第十九節「濕氣の供給」に至る十九分節
- 第六章 育雛  
第一節「雛の斃死原因」より、第二十六節「大雛の放飼」に至る二十六分節
- 第七章 經營法  
第一節「創業時の注意」より、第十一節「無形の資本」に至る十一分節

### 中編講座の部



第八章 營 理 法

第一節「管理に成功する人」より、第十七節「人造産卵場所」に至る十七分節

第九章 販 賣 法

第一節「市場へ出す時機」より、第二十二節「肉の榮養價」に至る二十二分節

後編 講座の部

第十章 出 品

第一節「出品用七面鳥」より、第十五節「出品中の心得」に至る十五分節

第十一章 審 査

第一節「標準點數」より、第十五節「肉の審査實務」に至る十五分節

第十二章 疾 病

第一節「七面鳥の二大注意」より、第二十一節「害敵の防禦」に至る二十一分節

x x x x

東京市京橋區常盤町壹番地

家禽獎勵普及會

電話京橋(56)一二八八番  
振替口座東京七五二三〇番

知 票

氏名	住所	拂込人
	※	
印 附 日 應 管 所 座 口		

※印を付しする前に拂込人に於て記載せらるべし

金額を訂正せらるる

受 領 票

口 座 番 號	東 京 七 五 一 三 〇 番
加 入 者 氏 名	東 京 市 京 橋 區 常 盤 町 一 番 地 家 禽 獎 勵 普 及 會
印 附 日 局 付 受	
一 金 參 圓 六 拾 貳 錢 也	

欄外注意事項に反するときは郵便局にて受付を断る事あるべし

監査		票	
局印番	東京七五一三〇番	加入者	東京市京橋區常盤町一番地
受付		氏名	家禽獎勵普及會
口座		氏名	
拂込		氏名	
人氏		氏名	
名		氏名	
東京七五一三〇番		東京七五一三〇番	
東京市京橋區常盤町一番地		東京市京橋區常盤町一番地	
家禽獎勵普及會		家禽獎勵普及會	
印附日局付受		印附日局付受	
印附日廳管所座口		印附日廳管所座口	

数字は必ず楷書、文字は正確明瞭に書くこと

拂込		票	
加入者	東京七五一三〇番	加入者	東京市京橋區常盤町一番地
氏名	家禽獎勵普及會	氏名	家禽獎勵普及會
氏名		氏名	
住所		住所	
氏名		氏名	
東京七五一三〇番		東京七五一三〇番	
東京市京橋區常盤町一番地		東京市京橋區常盤町一番地	
家禽獎勵普及會		家禽獎勵普及會	
印附日局付受		印附日局付受	
印附日廳管所座口		印附日廳管所座口	

各票金額高に相違なきこと必ず確むること

拂込		通知	
加入者	東京七五一三〇番	加入者	東京市京橋區常盤町一番地
氏名	家禽獎勵普及會	氏名	家禽獎勵普及會
氏名		氏名	
住所		住所	
氏名		氏名	
東京七五一三〇番		東京七五一三〇番	
東京市京橋區常盤町一番地		東京市京橋區常盤町一番地	
家禽獎勵普及會		家禽獎勵普及會	
印附日局付受		印附日局付受	
印附日廳管所座口		印附日廳管所座口	

金額を訂正せざること

受領		票	
加入者	東京七五一三〇番	加入者	東京市京橋區常盤町一番地
氏名	家禽獎勵普及會	氏名	家禽獎勵普及會
氏名		氏名	
住所		住所	
氏名		氏名	
東京七五一三〇番		東京七五一三〇番	
東京市京橋區常盤町一番地		東京市京橋區常盤町一番地	
家禽獎勵普及會		家禽獎勵普及會	
印附日局付受		印附日局付受	
印附日廳管所座口		印附日廳管所座口	

一金參圓六拾貳錢也

注意

一 受領票の金高其他に相違ある時は直に其の更訂を求めらるべし  
一 受領票は振替貯金拂込の証憑となるべきものなるにより大切に保管せらるべし  
一 振替貯金の拂込金には左の割合に依る料金を郵便切手を以て拂込人より徴收せらるゝものとす但し「拂込料金加人者負擔」の表示あるものは此の限にあらす

五拾五圓 拾圓 迄  
八六四圓 錢錢錢  
千五百圓 拾五圓 拾五圓 拾五圓  
「圓を越ゆるときは其の超過額千圓迄毎に四錢を加費す

各票の金高不同及書體不良のものは事故を起して送金が

入會願

私儀今般貴會の趣旨に賛同し講座會費三ヶ月分相添へ入會申込候により直に七面鳥飼養法講座御送附被下度候

(住所)

姓名

大正 年 月 日

家禽獎勵普及會 御中

通信文記欄

遅延し又は不達になることがありますから御注意下さい

注意すべき事柄

▲振替貯金なさる時は、此用紙の裏の押込票と通知票との、捺印を附けてある所に、それ／＼金額や、年月日や、讀者の住所氏名などを記し、受領票の續いてゐるまゝで、現金を添へて郵便局へお持ちになるのです郵便局では受領票をお渡します。

▲此用紙にお書きになる文字は、丁寧に分りよくし、一二三十などの數字は必ず壹貳參拾の文字に願ひます。

▲此用紙御持參の節別に一枚郵便局より貰ひ置けば、次の注文の際、應々郵便局に行て注文書を書く不便なく、使の者で用が足ります。

▲住所氏名は必ず明に御書き下さい。

▲注文金額の外に振替登記料を必ずお加へ下さい。

▲受領票は大切に保存の事。

▲此用紙御持參の節別に一枚郵便局より貰ひ置けば、次の注文の際、随々郵便局にて注文書を書く不便なく、使の者で用が足りません。  
 ▲住所氏名は必ず明に御書き下さい。  
 ▲注文金額の外に振替登記料を必ずお加へ下さい。  
 ▲受領票は大切に保存の事。

非賣品

大正拾五年十二月廿二日印刷  
 大正拾五年十二月廿五日發行  
 昭和二年三月十五日再版發行



不許  
 複製

東京市京橋區常盤町一番地

發行所 家禽獎勵普及會

(電話京橋一八八番)  
 (振替東京七五三〇番)

編輯者 東京市京橋區常盤町壹番地

編輯者 家禽獎勵普及會

東京市京橋區常盤町壹番地

發行者 櫻井喜内

東京市四谷區龜町十二丁目十番地

印刷者 田中房太郎

東京市四谷區龜町十二丁目十番地

印刷所 文明堂印刷所

### 安全なる會費送金法

安全便利なる送金方法としては茲に添えてある振替用紙に會費金參圓五拾錢及送料金拾貳錢（合計金參圓六拾貳錢）を添えてもよりの郵便局に御差出しになれば數日中には間違ひなく本會へ着金致します。

着金次第本會では直ちに七面鳥飼養法講座を御發送申上げます。

終